

小金井雑学大学

第15号 平成19年1月1日

だより

九周年を迎えるにあたって

小金井雑学大学学長 富永 一矢

平成十年三月十五日に第一回講座を持って開講された雑学大学も平成十九年三月には二百七回の講座を持つことになりました。

この組織を立ち上げるための準備には田部井文雄先生をはじめ五十嵐京子さん、理事の皆さん大変なご努力があったことだろうと推察申し上げます。しかしそれ以上に開校以来今日まで一度の休講もなく続けて来られたご努力には本当に頭の下がる思いでございます。

このことは正に創立者の方々の思いが、多くの受講者の共感を呼び支持された事と申せましょう。ここ数年は年間一千名近い受講者をお迎えしておりますのが、如実にそのことを物語っていると思います。

開講記念講座で持田直武氏は、現代日本の問題点を次のようにあげられております。

「世代間の交流がない。高齢者はゲートボール、中年はゴルフ、若年はコンピューターで、同世代間の交流は盛んだが、異世代間が断絶している。外国にはない現象。これでは生活の知恵や経験といったものが次の世代に受け継がれない。経済的に豊かになった生活の中に見落とされてきた生きがいや心の問題など改めて一人一人が自分に問い直していく時ではないか」と。

十年一昔ともうしますが、この問題は解決どころかますます深刻になってきております。教室に各世代が集まり講義の後でそれぞれの立場から意見を述べ合う事が出来たらどんなにか素晴らしいでしょう。そのため企画も準備し、また会場で知り合った友人と楽しく語り合う場にもなり得たらと念じております。

小金井雑学大学を更に発展させるために我々も努力を重ねますが、受講者皆様方も、講師のご紹介や、ご家族や友人などをお誘い頂くなどの更なるご協力をお願い申し上げます。

授業風景



八年間を顧みて

前学長 田部井 文雄

平成十年（1998）三月十五

日「小金井雑学大学」が発足して
から八年八ヶ月余りの歳月が流
れました。開講以来二百回、講師
の方々は百人以上、聴講された
方々は、一回四十人平均としても
延べ八千人にも達したはずです。
おこがましくも満八年間、学長の
重責を担って参りました者とし
て、いささかの感慨なきを得ませ
ん。そして何よりも、何等かの形
で参加して戴いたすべてのの方々
に対して、深甚なる謝意を表する
ばかりです。

それにつけても、馬齢のみ加え
て未熟者の私を、終始変わらぬボ
ランティア精神を以って、支え続
けてくださった理事の方々には、
感謝の言葉もございません。また
しても『論語』の言葉ですが、「子
曰わく、徳は孤ならず。必ず隣

有り」と。「人柄の立派な人は、
孤独には陥らない。必ずよき隣
人にめぐまれる」という意味で
しょうか。不徳非才の身を以つ
て、はからずもこの雑学大学を
通じて恵まれました隣人、知己
の方々の多きに、今は驚くばか
りです。

世の常の人にとって、とりわ
けて高齢の人にとつての至福の
時を得る条件は、何よりもこの
隣人、友人、仲間を獲得するこ
とではないでしょうか。そして
その人々と交流し、一つの行動
や哀歓を共にすることだと思ひ
ます。進んでその場を設定する
ことこそ今後の雑学大学が担う
べき責務の一つでもありましよ
う。良識ある雑学大学の方々に
孤独はありません。すでに回を
重ねている「五行歌の会」のよ

うなサークル活動の充実が必要
です。いささか私事にわたりま
すが、それにならつて雑学大学
役員の皆様のご協力により、最
近、東小金井駅南口、徒歩五分
の東小金井駅開設記念会館（マ
ロンホール）で「小金井漢塾」
を開設、まずは、毎月第二、第
四の土曜日の午後、『論語』か
ら読み始めております。

世の営みのすべてにわたつ
て、事の成否は、結局人材を得
るか否かにかかっています。雑
学大学に結集する市民の皆さん
のより積極的な推進力を期待し
ます。



雑学大学のホームページができました。

アドレスは下記のとおりです。一度開いてみて
ください。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/zatsugaku/>

小金井雑学大学では運営に参
加していただける方を募つて
います。左記のような役割を
分担して運営しておりますの
で、関心のある方は、理事に
お声をかけて下さい。

カリキュラム担当

広報担当

当日準備担当など

おかげさまで九周年をむかえます

代表理事 村杉 清和

平成十年三月十五日、新聞紙上で「小金井雑学大学あす

開校式 市民が手作り」を読んで本町の公民館にさしたる考えもなく雑学大学に足を運んだのが最初でした。田部井文雄初代学長の「アカデミズムにとらわれず、自由で幅広いテーマに取り組み、多くの参加者が、楽しい、生きがいを見出せる場にしていきたい」との挨拶に感動させられ、毎回の講義は文学・時事・環境等と幅広く、地域の人々との交流等、自分の視野を広める有意義な活動が市内に在るのだと認識して満足を得ながら出席を続けました。結果として毎年の周年記念日に「精勤賞」の受賞の栄に浴し「雑学よ！私に学習の場を与えて

くれて有難う」の気持ちを抱き続けての九年間でした。

雑学大学の発足からほぼ毎回の講義出席の結果として、「理事」お世話役の立場になったのですが、講義当日は若干早めに会場に到着して机・椅子の移動準備をしながら、勝手に今日の出席者数を予想してみます。講義名・教授のプロフィール等を考え合わせ、予想が外れる場合が結構あります。それは私自身の感覚と社会の動向とのズレが、大きな原因ではないかとも考えて、自らの社会の対応の遅れを自覚し自戒の材料として私自身の成長の為に「理事」を務めさせて貰っています。特に最近の講義では忌憚のない質問が活発で、教授と受講者が一体となつての素晴らしい雰囲気を感じ

させられていまして、「雑学大学に来て良かった・勉強になった・楽しかった」という満足感を共有しながら、更に友人を増やす方向を今後とも目指します。

田部井文雄初代学長が築かれた基盤のうえに、富永現学長と共に次なる十周年に向けて「雑学の宝庫」の探求を多くの教授・受講者の皆様からの支えを得ながら、どの様な花を咲かせられるのか。『らしさ』を求めて更に飛躍した舞台を模索し続けたいと考えます。

『こんな講義を聴いてみたい』などのご意見をお寄せください。自薦・他薦の講師も募集中です。

九周年記念講演のお知らせ

「中央線の詩(うた)」

千葉 康由氏(朝日新聞カメラマン)

3月18日(日) 2時より

会場は萌え木ホール

現在の役員体制

学 長	富永 一矢
代表理事	村杉 清和
理事	白井 康敬
理事	仙石 善四郎
理事	田中 昂
理事	田中 留美子
理事	森内 正身
理事	佐藤 直子
理事	五十嵐京子
監事	内藤 治誠
監事	星野 静子

講義は二百回を超えました！

前代表理事 五十嵐 京子

小金井雑学大学を設立したのは平成十年三月でしたが、準備に約半年かかりました。最初の理事五人で協議を重ね、運営方法として手本としたのは東京雑学大学(当時保谷田無雑学大学)で、講師料・受講料・場所代がタダの三タダ主義と、学生登録会費制度による運営の方法もそのまま借用させていただくことにしたものの、困ったのは会場でした。日曜日に会議室を貸してくれる所を探し回った結果、運良く小金井工業高校で会議室を貸してくれるというご好意を得、学長に田部井先生が決まりスタートをすることができました。

一年は続けられるだろうという思いで始めたわけですが、本場に様々な方々の講師紹介により、まもなく九周年を迎えようとしております。この間、二百回以上の講義を提供させていただきましたが、新たな知識を得る喜びや、友を得る喜び、様々な講師にお会いする喜びを味わうことができました。今ではテレビでお馴染みの野口健さんが亜細亜大学の学生の時、最年少で世界七大陸の最高峰を征服してまもなく、亜細亜大学にお願いして講師を引き受けていただいた時の喜びは今も忘れません。話の面白さも予想外でした。

小金井雑学大学が地域で果たした役割は、まず市民の自発的な活動として、生涯学習の時代に地域の方々に講義を提供し続けたこと、そして地域の方々が交流できる場を提供していることなどが上げられると思います。

この春に代表理事を村杉さんと交替し、一理事として運営に参加していますが、できるだけ多くの方に運営に参加していただき、皆で作り上げる雑学大学にしていきたいと思っています。

さらに、他市で同じような活動をしているグループの方々とネットワークを作って、インターネットによる講義やシンポジウムなどを開催する活動も六年になります。こちらもより一層の充実を図っていききたいと思っています。

12月のアンケートから(一部抜粋)

- ・コンスタントに出席することが、雑学大の最高の活用法かとおもいます。
- ・出版書物では知り得ない、現場経験者の裏話等、興味津々でした。
- ・熱演で元気がでました。タイムスリップした感じです。アンコールをお願いします。

編集後記

明けましておめでとございます。今年もお元気で雑学大学にご出席ください。昨年四月に新体制になって、少しずつ仕事にも慣れてまいりました。一緒に活動してくださる方をお待ちしております。

三月十八日で雑学大学も九周年を迎えます。記念講演は、朝日新聞に連載されていた、「中央線の詩」のカメラマンの方のお話です。お楽しみに。

(田中留美子記)

発行責任者 村杉 清和

小金井市中町 × × × × × × × ×

042・×××・××××